

内部質保証のアクターをめぐる日英比較 —学生の役割に着目して—

名古屋大学高等教育研究センター第105回客員教授セミナー
2022年3月17日(木)14:00～16:00
田中正弘（筑波大学大学研究センター）

はじめに

- 内部質保証に学生が参画する??

新たなアクターの
登場!?

教員A
学生に評価など
できるのか!!

疑念



教員B
学生に評価など
されたくない!

困惑



学生A
評価活動は
めんどい!

学生B
厳しいコメントなどしたら
教員に怒られる、、、

- 新たなアクターの参画はなぜ必要?

目次

1. 本発表の目的
2. イギリスの質保証
3. イギリスの事例
4. 日本の事例
5. 日英比較（まとめ）



本発表の目的

- イギリスの内部質保証において、学生はいかなる役割を担っているのかを明らかにする
- 日本における類似の取り組みを分析し、日英比較を行う。
- なぜ学生が内部質保証に参画すべきなのか、教育の質の向上および学生の成長の観点から論じる。





2. イギリスの質保証

イギリスの質保証

- イギリスの質保証を担う主なアクター

- 外部質保証

- ✓ 「高等教育質保証機構」 (Quality Assurance Agency for Higher Education : QAA) は機関別評価を担う。
- ✓ 「アクレディテーション団体」 (Accreditation Agencies) は分野別評価を担う。

- 内部質保証

- ✓ 大学は「自己点検・評価報告書」 (provider submission) を作成する。
- ✓ 学生 (学生団体) は「学生意見書」 (student submission) を作成する。
- ✓ 学外試験委員は「学外試験委員報告書」 (external examiner report) を作成する。



高等教育質保証機構（QAA）

- QAAは、イギリスの大学を対象とした機関別評価を行う。
 - QAAの（イングランドでの）評価は、「質・基準レビュー」（Quality and Standards Review）と呼ばれる。
 - このレビューで参照される基準が「クオリティ・コード」（UK Quality Code for Higher Education: QC）である。
 - ✓ QAAの質・基準レビューを受審する大学はQCを満たすことを求められる。



クオリティ・コード（QC）

- 最新版のQC2018は、主に三つの要素で構成されている。

① 「期待」（Expectations）

- ✓ 大学が到達すべき質と基準を明示する。

② 「プラクティス」（Practices）

- ✓ 期待に応えるために実践すべき事柄を明示する。

③ 「助言と指導」（Advice and Guidance）

なお、②「プラクティス」は、必ず実践すべき「コア・プラクティス」（Core Practices）と、実践が望まれる「コモン・プラクティス」（Common Practices）に分かれている。

学生参画に関わる「プラクティス」

- コア・プラクティス

- 「高等教育機関は、**学生の教育体験の質に関して、個別または集合的に、学生の関与を積極的に促す。**」

- コモン・プラクティス

- 「高等教育機関は、**学生の教育体験の質の発展、保証および向上に関して、個別または集合的に、学生の参加を促す。**」

✓ 教育の質（の保証）に学生が関与・参加していないと、QCを満たせない。

学生参画に関わる「助言・指導」

- 学内の意思決定のプロセスや質保証に学生をどのように参画させるかを戦略としてまとめ、高等教育機関と学生代表組織（学生団体）の間で**学生参画に関する合意書を締結**すること
- 学生の実質的な参画を確保するため、**意思決定組織に学生代表を他のメンバーと対等な立場で迎える**とともに、学生の意見を幅広く収集するための仕組みを適切に構築すること
- 学内の様々なレベルの意思決定組織に学生代表を適切に配置するよう支援するとともに、学生代表の役割について理解を深めるための**学生向けの研修を実施**すること

QAAの評価の受審

- 大学
 - QCの基準に照らして自ら評価した結果を「自己点検・評価報告書」(provider submission)にまとめ、QAAに提出しなければならない。
- 学生（学生団体）
 - 学生が独自に作成する評価報告書として、「学生意見書」(student submission)の提出を求められる。
 - 上記の評価報告書に基づき受審大学の事前審査が行われ、その結果を確認する目的で、QAAの評価部会が訪問調査を実施する。

出典：田中正弘・武寛子（2022）「学生が作成する評価報告書は質保証にどのような影響を与えているか—スウェーデンとイギリスの『学生意見書』を参考に—」『教育学系論集』46(2)、1-16、8-9頁。

QAAの役割（学生参画）

- QAAの業務への学生参画
 - 各種委員会の委員として学生が参加
 - ✓ QAAの管理運営への学生の助言
 - 評価部会の部員として学生が参加
 - ✓ 受審大学の訪問調査への学生の帯同
 - 学生組合と各種イベント開催を協働
 - 参画する学生に訓練の機会を提供
 - 学生向けに各種情報誌を発行

アクター間の
協働！？

出典：Quality Assurance Agency (2022) Student Engagement
(<https://www.qaa.ac.uk/membership/highlights-from-last-years-membership-activities/student-engagement>)



The screenshot shows a QAA resource page. At the top, there is a QAA logo and the title "Talking about Quality". Below the title is a green banner with the text "Supporting Student Discussions on Quality, Standards and Value for Money". The main content area has a white background with a search icon in the top right corner. The text discusses the importance of communication between students and higher education providers, especially during the COVID-19 pandemic. It mentions that this resource aims to help students ensure these conversations are effective by clarifying some of the key terms. There is a small image of a student working on a laptop.

QAA

Talking about Quality

Supporting Student Discussions on Quality, Standards and Value for Money

Communication between students and higher education providers is important, especially discussions aimed at understanding the nature of the educational experience and the qualifications students achieve.

This resource aims to help students ensure these conversations are effective by clarifying some of the key terms.

Recent years have seen increased focus on expressions like value, value for money, standards and quality in higher education. Much has been written in the media, often linked to pledges by politicians to tackle 'low value' and 'low quality' courses. While higher education providers have illustrated the processes they have in place for assuring quality and standards, students have questioned the value of their higher education and what a quality experience should look like. This has intensified during the COVID-19 pandemic, when the ways courses are delivered and assessed has had to change.

At QAA we work with providers, students, governments and funding bodies - among other stakeholders - to safeguard academic standards and enhance the quality of UK higher education.

We have defined the terms 'academic quality' and 'academic standards' to ensure we all know what we are referring to when we use these words. The definitions we use are recognised across the sector, which means they should be used in similar ways within all providers when they are operating their processes for assuring quality and standards. The Expectations for quality and standards are set out in the [UK Quality Code](#), a key reference point for UK higher education which helps providers - and other stakeholders - to understand what is expected of them and what to expect from each other.



大学の役割（学生参画）

- 大学のガバナンスへの学生参画
 - （全ての）意思決定組織に学生が参加
- 大学の内部質保証への学生参画
 - 評価（実施）委員会の委員として学生が参加
 - 評価（対応）委員会の委員として学生が参加
 - 各種調査（授業評価など）に学生が参加
- 大学の教育活動への学生参画
 - ピアサポート活動などに学生が参加

アクター間の
協働！？

学生の役割（学生参画）

- 大学のガバナンスへの参画
 - （全ての）意思決定組織に参加
- 大学の内部質保証への参画
 - 評価（実施）委員会の委員として参加
 - 評価（対応）委員会の委員として参加
 - 各種調査（授業評価）に参加
 - 「学生組合」（Students' Union）による、独自の評価活動の実施
- 大学の教育活動への参画
 - ピアサポート活動などに参加

対等な
「パートナー」
として参画

学生組合（1/2）

- イギリスの学生組合は、大学から自律した、非営利の慈善団体（charity）である。
 - 通常、学生は誰でも無料で、所属する大学の学生組合に加入できる。
- 経済的に大学から自立している組合も多い。
 - 組合の主な収入源は各種店舗（バーやカフェ、フィットネスクラブ、大学グッズの販売店など）の営業利益である。
 - 専任職員を雇用している。
 - ✓ 「サバティカル・オフィサー」（Sabbatical Officers）と呼ばれる、学業を一時中断して常勤雇用されている、学生も含まれる。

学生組合 (2/2)



出典：Students' Union UCL (2022) Eat, Drink & Shop
(<https://studentsunionucl.org/eat-drink-shop>)



3. イギリスの事例

UCLの事例（1/5）

- ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（University College London: UCL）は、ロンドン大学に属する。
- イングランドでは、オックスブリッジに次ぐ、長い歴史を有する総合研究大学である。
- UCLは設立当時から開放性をモットーとしており、イングランドで最初に宗教・人種・性別による入学差別をなくしたことで知られている。

欧州の大学で初めて日本人留学生（伊藤博文などの長州五傑）を受け入れた大学である。現在も留学生の受け入れに積極的で、学士課程の学生の過半数は留学生である。



出典：University College London (2022) HP (<https://www.ucl.ac.uk/>)

UCLの事例（2/5）

- UCLの学生組合（注：当時の名称はUniversity College London Union: UCLU）が「学生意見書2016年版」（*Student Submission to the QAA Higher Education Review 2016*）を作成した。
 - この意見書は、52頁の大作で、序章と終章を除いた全4章で構成されている。
- 学生の関心が高い四項目（学生参画、学修と教授、成績評価とフィードバック、学生の学業達成と職業能力開発）の現状と課題、および改善案が提示されている。

UCLの事例 (3/5)

• 第1章 (学生参画)

- ▶ 学生代表がほぼ全ての常設会議に参画できていることを、高く評価している。
- ▶ ただし、学生代表が施設管理委員会への出席を認められていないことに懸念を示している。
 - ✓ 学生の不満が施設設備 (手狭な学修スペース) の問題に集中していることが学生調査などで明らかになったからである。
- ▶ 改善案1 :
 - ✓ 学修スペース検討会議や施設管理委員会に学生代表を参加させることにより、施設の問題に対する学生参画を強化すべきである。

UCLの事例（4/5）

• 第2章（学修と教授）

- ▶ チューター（教員）が学生の学修などを個別に支援する、チューター制度の問題を取り上げている。
 - その根拠とされたのが、2015年の調査（2015 Summer Wave Student Barometer）で、自由記述欄の回答の実に73%が、チューター制度に否定的な内容を含んでいた。
- チューターの熱意の不足と個別支援に必要な訓練の欠如が問題視された。
- 改善案7：
 - チューター制度の改善に踏み出すべきである。例えば、指導教員と関わる機会を担保したり、個別支援を支える調和アプローチを構築したり、適切な訓練や援助を指導教員に提供したりすることが考えられる。

UCLの事例 (5/5)

- 改善案に対するUCLの対応
 - 例えば、改善案7を受けて、UCLはチューターが訓練を受けるオンラインコースを開設している。
 - [What students' value about personal tutoring \(https://www.youtube.com/watch?v=zL_FaY_hZGU&t=121s\)](https://www.youtube.com/watch?v=zL_FaY_hZGU&t=121s)
 - [Student experience of personal tutoring at UCL \(https://www.youtube.com/watch?v=HdJlc7c31fw&t=1s\)](https://www.youtube.com/watch?v=HdJlc7c31fw&t=1s)
 - 改善案にUCLが適切に対応したか否かは、毎年Students' Union UCL が確認し、その結果は年次報告書などで公表されている。

グロスタシャー大学の事例（1/4）

- グロスタシャー大学（University of Gloucestershire: UoG）は、多様な高等教育機関の再編統合を経て、2001年に大学の称号を得た、新しい大学である。
- 提供する学問分野は人文社会系から体育芸術系まで幅広く、地域で唯一の総合大学へと短期間で発展している。



Oxstalls campus →

Business, accounting, law, sports, health, social care, events, hospitality and performing arts.



Park campus →

Computing, engineering, design and media.



Francis Close Hall →

Education, humanities, art and natural and social sciences.



Hardwick Centre for Fine Art & Photography →

Fine art and photography.

グロスタシャー大学の事例（2/4）

- UoGの学生組合（Students' Union, University of Gloucestershire: SUUoG）が「学生意見書2015年版」（*Student Submission 2015*）を作成した。
 - この意見書の分量は全49頁で、「はじめに」や「結論」を除いた全3節で構成されている。
 - ✓ 第1節：学生参画の現状について
 - ✓ 第2節：前回の意見書（2010年版）で提言した改善案に対する大学の対応について
 - ✓ 第3節：教育の質について
- SUUoGの意見書の特徴は、自ら立てた問いに、自ら答える形で記述されている点である。

グロスタシャー大学の事例 (3/4)

- 第3節の問いには、学生のレポート課題へのフィードバックに関するものもある。
 - 問4「学生はフィードバックが折よく、かつ役に立つと感じていますか？」 (SUUoG 2015: 18)
 - フィードバックの問題は、多くの学生組合の意見書で指摘される事柄である。
- SUUoGは、UoGがオンライン評価管理システムを2014-15年度に導入したことを高く評価している。
 - このシステムの導入により、判読不能な手書きコメントを難儀して解読する必要がなくなっただけでなく、フィードバックの監視がしやすくなったからである。

グロスタシャー大学の事例（4/4）

- 第3節のその他の興味深い問いには、以下のものがある。
 - 問7「学生は新しいプログラムの設計に参加できますか？」
 - 回答「ある程度の参加なら可能です」
 - 問8「学生は教員の資格や訓練は十分だと感じていますか？」
 - 回答「高等教育機関での教育歴が3年未満の教員は原則全員、UoGが提供する大学院課程（Postgraduate Certificate in Academic Practice）の修了を求められています」
 - 問10「学生は教員の研究と授業の内容に関連があるという証拠を見られますか？」
 - 回答「学生が見られる統計的データはありません」
 - 問18「学生のカリキュラムに雇用可能性（employability）を高める要素は含まれていますか？」
 - 回答「UoGは何らかの方法で、全てのコースに雇用可能性を高める要素が含まれていることを保証しています」

ボルトン大学の事例（1/4）

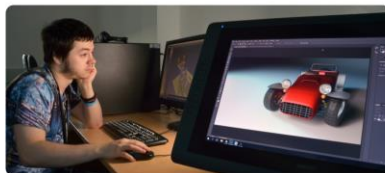
- ボルトン大学（University of Bolton: UoB）は、1982年に設立された高等教育機関を前身とし、2004年に大学の称号を得た新しい大学である。
 - 職業教育への特化、工学分野の教育への強み、新しい領域（ゲーム制作やモータースポーツなど）への挑戦などで、よく知られている。

BSc (Hons) Games Design

You are viewing 2021-22 details

[View 2022-23 details](#)

Want to turn your passion for games into a career? Our Games Design graduates have a proven track record of success. Our experienced games tutors are ready to support and guide you on your mission to develop the technical knowledge and creative skills demanded by this ever-growing industry.



[Programme specification](#)

[Download a brochure](#)

Key information

Award: BSc (Hons)	Mode of Study: Full-time	Duration: 3 years	Location: University of Bolton	UCAS code: G613	Start date: To be confirmed
----------------------	-----------------------------	----------------------	-----------------------------------	--------------------	--------------------------------

BEng (Hons) Automotive Performance Engineering (Motorsport)

You are viewing 2021-22 details

[View 2022-23 details](#)

Offering real-life experience of the motorsport industry, access to up-to-the minute, purpose-built workshops and laboratories, and passionate, experienced lecturers, our IMechE-accredited Automotive Performance Engineering (Motorsport) degree is for you if a career at the cutting-edge of automotive and motorsport engineering is your aim.



[Programme specification](#)

[Download a brochure](#)

Key information

Award: BEng (Hons)	Mode of Study: Full-time	Duration: 3 years	Location: University of Bolton	UCAS code: 779L	Start date: To be confirmed
-----------------------	-----------------------------	----------------------	-----------------------------------	--------------------	--------------------------------

出典： University of Bolton (2022) HP (<https://www.bolton.ac.uk/>)

ボルトン大学の事例（2/4）

- UoBの学生組合（Bolton Students' Union: Bolton SU）が「学生意見書2019年版」（*Quality and Standards Review Student Submission 2019*）を作成した。
 - 独自に立てた項目に関する分析結果を全28頁で詳述している。
 - この分析に利用したエビデンスは、表1の通り。

表1：分析に利用したエビデンス

利用したデータ	実施・作成年
学生組合の年次報告書	2017, 2018
大学の年次事業計画書	2017, 2018
学生座談会のフィードバック	2016/17, 2017/18, 2018/19
コース代表のフィードバック	2017/18
全国学生調査（NSS）の結果	2018, 2019
執行部の議事録	2018, 2019
学生会議の議事録	2018
学生による優秀教員表彰	2017/18, 2018/19
話し合い週間のフィードバック	2018/19
学生のフィードバック会議	2019
学生による異議申立書	2017/18

出典：Bolton SU (2019) *Quality and Standards Review Student Submission 2019*, Bolton SU.

ボルトン大学の事例（3/4）

- 表1のエビデンスは、他大学で用いられているものと大差ない。
 - ▶ ただし、ここで注目すべきことは、Bolton SUが独自に実施する調査（学生のフィードバックを多様な方法で収集する取組）の多くが、ここ数年の間に開始されたことである。
- つまり、Bolton SUの調査の充実は、QAAの評価で学生意見書を参照するようになったことによって、促されたといえる。
 - ▶ 同様の理由から、イギリス全体で学生組合が様々な調査を開始するようになった。
 - ▶ 同時に学生組合は、学生に対して、調査を行うのに必要なスキルの養成も行うようになった。

ボルトン大学の事例（4/4）

- 項目9「大学は、全ての学生の学問的成功と就職活動での成功を支援しているか」
 - 主にNSSの結果から、フィードバックが（UoBが約束した期限である）15日以内になされていない事例をあぶり出している。
 - さらに、学生の学問的成功をUoBとBolton SUが協働で支える体制について触れている。
 - ✓ 例えば、学生座談会や「中退防止キャンペーン」（Don't Drop Out Drop In）、および無料の学生相談を協働で実施することが提案されている。

小まとめ

- イギリスでは、主に学生組合が、学生代表として、内部質保証への学生参画を担当している。
- 評価活動の実働を担うのは、学生組合の常勤職員（サバティカル・オフィサーを含む）である。
 - サバティカル・オフィサーがいない大学（特に、ボルトン大学などの新設大学）も多い。
 - 調査の分析などは、シニア職員が担当することも多い。
- 学生意見書の様式や分量は定められていない。
 - 電子媒体（動画や音声）で提出しても構わない。
- このため、学生組合の質（資金力）が学生意見書の質を決める一つの要因になっている。



4. 日本の事例（筑波大学のみ）

筑波大学の事例（1/7）

• 教学マネジメント室の設置（2020/4/1）

➤ 主な業務

➤ モニタリング

➤ **プログラムレビュー**

➤ 教育組織の新設や改組に伴う学内審査

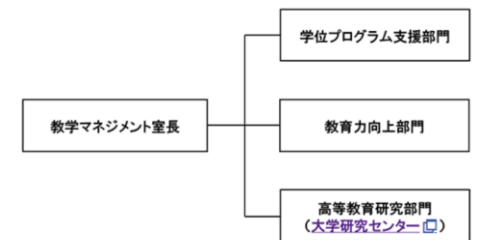
➤ 教育及び学修に関するデータ分析（教学IR）

➤ 各種ステークホルダーへのアンケート調査

➤ 全学的なファカルティ・ディベロップメント活動の推進

➤ 高等教育に関する調査研究

組織図



出典：筑波大学（2022）「教学マネジメント」
(<https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/>)

筑波大学の事例（2/7）

- プログラムレビューの実施計画

- 編成方針

- ✓ 認証評価（7年に1回）のサイクルに合わせて計画する。
 - ✓ 認証評価の受審年度にはプログラムレビューを実施しない。

- プログラムレビューのスケジュール

年度	事項
2020年度	教学マネジメント室の設置・プログラムレビューの正式導入
	⇕ 4年間でプログラムレビューを一巡
2024年度	機関別認証評価の受審
	⇕ 6年間でプログラムレビューを一巡
2031年度	機関別認証評価の受審
	⇕ 6年間でプログラムレビューを一巡

出典：筑波大学（2020）「プログラムレビューの実施計画」
（<https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/pdf/programreviewplan.pdf>）

筑波大学の事例（3/7）

- プログラムレビューの実施組織として、教学マネジメント室にプログラムレビュー委員会を設置する。
- 委員会のメンバー：
 - 内部委員（筑波大学の職員≒教員）
 - 外部委員（勤務先が筑波大学以外の者）
 - 学生委員（プログラムレビューの対象となる学群、研究群などに在学している、または卒業・修了後に上位の課程に在学している者）
 - 2020年度に21、2021年度に18のプログラムが審査された。
 - 各プログラムの審査に当たる委員は複数のプログラムを担当するため、2020年度に計7人、2021年度も計7人、2年間で計14人の学生委員が誕生した。

アクター間の
協働！？

筑波大学の事例（4/7）

• 学生委員の選出

- ▶ **各学位プログラム**に関する学群、研究群又はグローバル教育院の長は、（中略）所掌する学位プログラムの意見を聞いた上で、学群、研究群又はグローバル教育院ごとに、**各1名の外部委員及び学生委員**を教学マネジメント室長宛に推薦する。

評価される組織
の長が評価する
側の学生委員を
選ぶ！？

「言うべきことも全く
言わない」学生しか、
選ばれないのでは！？

筑波大学の事例（5/7）

• 学生委員の役割

- 主として学生代表としての意見の表明並びに委員会が実施する学位プログラム等への助言及び評価に係る補助的業務の遂行に関すること。
- 学生委員には、まず、自身が弟子でもなく消費者でもなく、ともに教育を良くしていくための**パートナー**として位置づけられていること（中略）が理解される必要がある。

新たなアクターは、
対等なパートナー！？

出典：筑波大学（2021）「筑波大学におけるモニタリング及びプログラムレビューの実施に関するガイドライン」、16頁、19頁。

筑波大学の事例（6/7）

・ プログラムレビュー委員会に学生委員を加える意義

大学にとっての意義	学生にとっての意義
教育の質保証及び質向上に関する直接の受益者である学生の意見を反映することができる。	大学運営へ参画することが自身のエンパワーメントと所属意識の向上につながる。
内部委員及び外部委員だけでは得ることのできない新鮮な視点や意見を得ることができる。	自身、同僚及び後輩の学修経験の向上に寄与することができる。
学生委員が入ることで誤魔化しが効かなくなり、形式的な質保証に陥るリスクを軽減することができる。	教職員と協働することで実務的な経験を獲得することができる。
中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が提言した「学修者本位の教育への転換」を推進する国内の先進事例となる。	就職活動でPRできる経験が増える。
	多少の報酬（謝金）が得られる。

出典：筑波大学（2021）「筑波大学におけるモニタリング及びプログラムレビューの実施に関するガイドライン」、17頁

筑波大学の事例 (7/7)

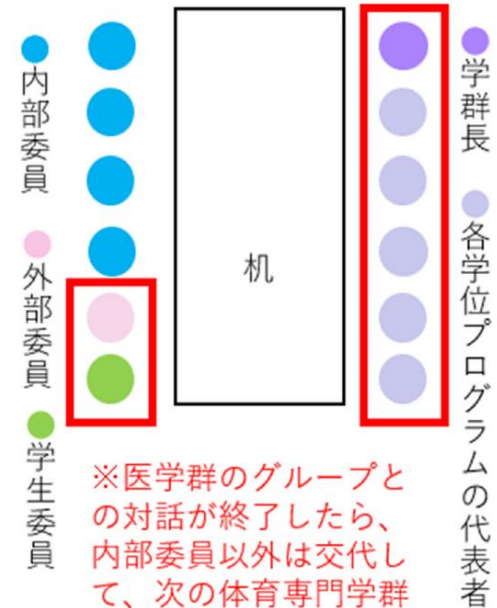
- 内部質保証に学生が参画することについて
 - 評価をする側の教員
 - 評価を受ける側の教員
 - 当事者の学生

三者から、好意的な意見が多々聞かれた

対話時のイメージ

※対面の場合のイメージを記載しているが、オンラインの場合もこれに準じて行う。

(例：医学群のグループ)



※医学群のグループとの対話が終了したら、内部委員以外は交代して、次の体育専門学群との対話を行う。

※陪席：関係事務職員
(支援室職員を含む。)

出典：筑波大学（2021）「筑波大学におけるモニタリング及びプログラムレビューの実施に関するガイドライン」、35頁



5. 日英比較（まとめ）

まとめ（1/4）

- 学生参画の範囲

- イギリス：

- ✓ ガバナンス、質保証、教育の全てのレベルに学生が参画

- 日本：

- ✓ ガバナンスへの参画はほとんど見られない。



- 学生はガバナンスへの参画が認められないため、質保証に参画した際に提示した改善案が、（特に却下された場合は、）どのように扱われたのかを直接知るすべがない。



まとめ (2/4)

• 学生代表の選出

➤ イギリス :

✓ 学生代表の選出は通常、学生組合に一任される。

➤ 日本（筑波大の場合） :

✓ 学生の所属先の教員が推薦する。



- 筑波大学における質保証への学生参画の仕組みは、多くの西洋の研究者の目には、不完全なものに見えるだろう。
 - 教員が選ぶ学生代表は学生を代表しているとは見えないはずである。
- とはいえ、西洋の学生参画のあり方が唯一無二の正解とはいえない。
 - 東洋には、東洋なりのあり方があるはず???

まとめ (3/4)

• 学生代表の立場

➤ イギリス :

✓ 教職員と対等なパートナー

➤ 日本 :

✓ 教職員と対等なパートナー！？ (アシスタント?)



➤ 閲覧できる学内資料、意思決定への関与、参加できる対話の機会などに、アクター間の差が見られる。

➤ とはいえ、西洋におけるパートナーの考え方が唯一無二の正解とはいえない。

✓ 東洋には、東洋なりの考え方があるはず???

まとめ（4/4）

● 学生代表の（に期待される）役割

➤ イギリス：

✓ 全ての領域で教職員と協働し、学生の利益を守ること。

➤ 日本：

✓ 限定的な領域で教職員を補佐し、大学全体（関係者）の利益を守ること！？



➤ 日本では、学生は教職員の補佐に回るのが最善の仕組みであろうか？

➤ 参加者の皆さんと議論してみたいです。

アクター間で
対立！？

アクター間での
上下関係！？



ご静聴、ありがとうございました。

参考文献

- Bolton SU (2019) *Quality and Standards Review Student Submission 2019*, Bolton SU.
- 大学改革支援・学位授与機構 (2020) 「高等教育・質保証システムの概要 英国」第3版
- Quality Assurance Agency (2017) *Taking the Long View of the Student Voice: Analysis of Student Written Submissions to QAA Review and Audit*, QAA.
- Quality Assurance Agency (2022) Student Engagement (<https://www.qaa.ac.uk/membership/highlights-from-last-years-membership-activities/student-engagement>)
- Students' Union UCL (2022) Eat, Drink & Shop (<https://studentsunionucl.org/eat-drink-shop>)
- Students' Union, University of Gloucestershire (2015) *Student Submission 2015*, SUUoG.
- 田中正弘・武寛子 (2022) 「学生が作成する評価報告書は質保証にどのような影響を与えているか—スウェーデンとイギリスの『学生意見書』を参考に—」『教育学系論集』46(2), 1-16.
- 筑波大学 (2020) 「プログラムレビューの実施計画」 (<https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/pdf/programreviewplan.pdf>)
- 筑波大学 (2021) 「筑波大学におけるモニタリング及びプログラムレビューの実施に関するガイドライン」 (<https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/pdf/programreviewguideline.pdf>)
- 筑波大学 (2022) 「教学マネジメント」 (<https://www.tsukuba.ac.jp/about/action-management/>)
- University College London (2021) *Training for Personal Tutors* (<https://www.ucl.ac.uk/teaching-learning/teaching-resources/personal-tutoring/training-personal-tutors>)
- University College London (2022) HP (<https://www.ucl.ac.uk/>)
- University College London Union (2016) *Student Submission to the QAA Higher Education Review 2016*, UCLU.
- University of Bolton (2022) HP (<https://www.bolton.ac.uk/>)
- University of Gloucestershire (2022) Our Campuses (<https://www.glos.ac.uk/visit-us/our-campuses/>)